

協議会ニュース 102号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2005. 9

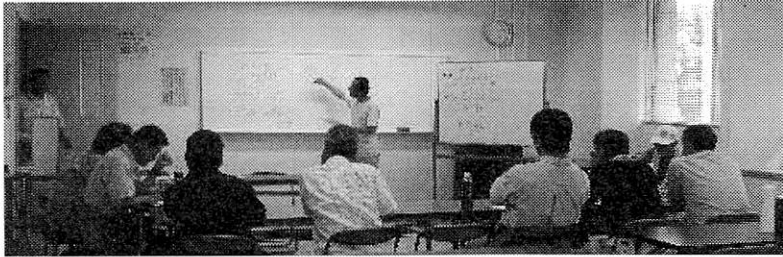


『スズメバチに気をつけよう』

● 特集 「学校における環境教育の指導方法」

報告・資料	P2~5
・会員のページ	三輪 千秋P6
・観察会のネタ	村瀬 由理P7
・観察会あれこれ	牧野 紀子P8
・豊かな自然セレクション 100 「阿寺の七滝」	村上 和彦P9
・愛知県自然観察指導員連絡協議会 創立 25 周年記念事業	P10
・理事会だより・事務局だより	P11
・編集部だより・行事予定 他	P12

研究会「学校における環境教育の指導方法」(第1回)



報告：尾張支部
齋竹善行

7月18日、あいちNPO交流プラザにおいて、「学校における環境教育の指導方法」と題する当協議会の研究会が開催されました。

せっかくの研究会でしたが、参加したのは事例発表をした3名を含め13人と少々さびしい状況でした。

発表者が資料を準備してきたもののOHPなどの機器が使えず、さらに会場をなごやボランティア・NPOセンターと間違えた人もいて、波乱含みの開始となりました。

最初に、会長の中西正さんが、10年ほど前に豊橋南高校に勤務していた時の経験を発表されました。学校の置かれた太平洋に近いという条件を生かして、ウミガメや海岸に捨てられたゴミなどをとりあげて、①1年生の入学時のオリエンテーション時に時間を取って説明、②生物部でウミガメの調査をして文化祭で発表、③ボランティアグループでゴミの調査や清掃活動、④理科の授業、遠足、PTA研修などを通じた取組などにより、教員や生徒の環境問題への意識を高めたという報告でした。

次に、理事の堀田守さんが、名古屋市名東区の猪高緑地の棚田を使って地元の小中学校の総合学習の一環として「米づくり体験」を行っていることを紹介されました。単に田植えや稲刈りの体験というだけでは総合学習としては不十分で、稲作技術や稲作文化、田んぼの生き物、地域の環境などについて指導者が十分理解し、アドバイスすることにより、参加する児童・生徒が自分で課題を見つけ、調べていくということが必要だということです。

3番目に名古屋支部長の滝田久憲さ

んが、森林環境教育について発表されました。東山自然観察会では名古屋市の東山地域で湿地の保全や希少動物の保護に取り組んできましたが、周辺の小学校との連携を目指し、2004年から指導員を派遣して学校林を利用して森の自然のしくみ、森と人との関わり、持続可能な森づくりなどについて理解を促す取組を進めているということです。

3件の発表に関連した意見交換が行われましたが、参加者に先生が多かったこともあって、学校での取組に関するものが多く出されました。

○最近、学校の生物クラブの活動が低迷しているが、理科系の先生も運動部に引っ張られ、生物クラブの指導ができない。
○学校の畑があるが、場所が離れているので移動に時間がかかる関係で活用が難しい。

○総合学習で子供のやりたいことに使える時間はわずか。学校は専門的な人を頼んでまかせっきり。

○農作業の体験がない親が多いし、体験のある親は、農作業はいやでたまらないのに手伝わされていたことから、子供の農業体験に理解がない。

○いい環境教育のプログラムを作っても、仕事を持っている指導員は、土日ではないと学校へ指導に入れない。

当日の参加者が少なかったこと、発表者が準備してきた資料が機器の関係でお見せできなかったこと、さらに次の議論の参考とするため、それぞれの発表者の資料を紙上で紹介します。

次回のこの研究会は9月23日に岡崎で開催されますので、ふるってご参加下さい。

学校教育における環境教育の取り上げ方

中西 正

1. 学校教育における環境教育の取り上げ方

学校教育の中では総合学習を待つまでもなく、いろいろな面で環境教育を取り上げることが可能である。10年前に、学校で扱った環境教育の取り組みの流れを図1に示す。その際の注意点を次に記す。

- ①テーマ化し、問題点、内容を明確にする。
- ②テーマは学校が置かれた地域、特色が生かす。
- ③教員に意識されることによって行事への組み込みが可能になるし、他教科との関連も生まれる。

2. 豊橋南高校の場合

- ①テーマは「ウミガメの保護」とした。
- ②豊橋南高校は、ウミガメが産卵に訪れる表浜（太平洋岸）から6kmの位置にあり、過去には遠足に行っていた。他の学校には見られない地の利がある。ウミガメの保護はソフトな響きがあり、今日的問題になりつつある（当時）。
- ③ウミガメの保護を呼びかけたグループは図2の様である。内容としては講話、調査、清掃等の直接活動を含んでいた。

3. ウミガメの保護をテーマにした環境教育から得られたもの

自然観察指導員の発想は自然であり、ソフトな響きを持つ。これを手がかりとして産卵の妨げ、孵化した子亀の海に戻る際の妨げになる「ゴミ」につなげる。そして、海岸のゴミから一般的なゴミ問題に展開する。

「ウミガメ」「ゴミ」を例にして、環境問題に言及し展開する。その様子を示したのが図3である。学年が上がるにつれて内容が深まる仕組みである。但し、全ての生徒が全てのプ

図1 学校教育における環境教育の取り上げ方

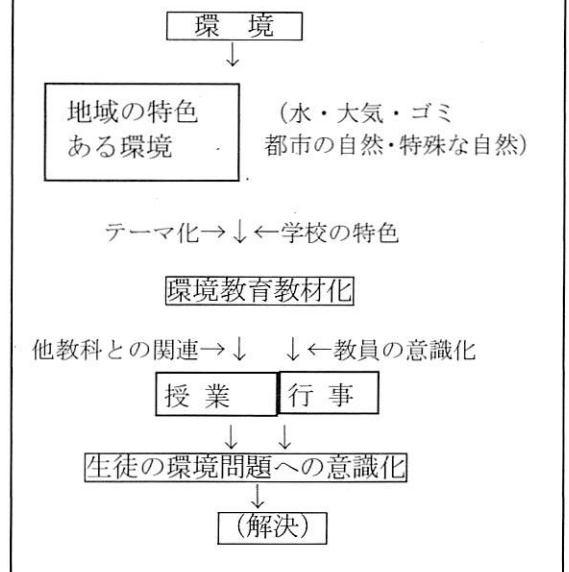


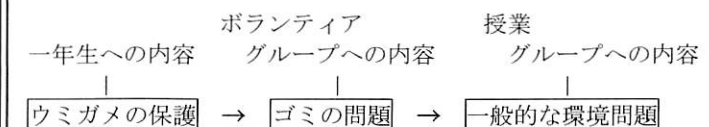
図2 ウミガメの保護を働きかけたグループ（行事）

- ◎一年生オリエンテーション合宿
 - ・環境とウミガメの講話
 - ◎生物部活動
 - ・ウミガメ調査
 - ・文化祭発表
 - ◎ボランティアサークル
 - ・ゴミ調査
 - ・海岸清掃
 - ◎三年生 理科
 - ・環境問題の授業
- 働きかけ可能な行事
- ・遠足 ・修学旅行 ・LT
 - ・勤労体験学習 ・スキー教室等の野外学習 ・PTA等の研修会

4. まとめ

総合学習が登場しても、それが必ずしも環境教育に触れることはないし、適性に活用されているとは限らない。総合学習が登場する前でも工夫すれば学校教育の中に環境教育を活かすことはできた例をここに示した。過去も現在も教員の意識が問題といえる。

図3 ウミガメの保護をテーマにした環境教育



田んぼ体験と環境学習

名古屋支部 堀田 守

はじめに

名古屋市名東区いたかの棚田（約 3100 m²）で無農薬、化学肥料は使用禁止とし、米つくり体験を始め 2005 年で 5 年目になります。本年は、大小 11 のグループが田んぼ米つくり体験を行っています。棚田開設当初から、地元小学校・中学校の総合的環境学習の一環として棚田の一部を利用して頂いています。そこでのやり方を見ていて、自然観察指導員として、田んぼ指導と環境学習について思うことをまとめてみました。

環境学習（米つくり体験）に思うこと

田植え・稲刈りのみの田んぼ作業体験では、イベントとしては効果があると思いますが、これだけでは、環境学習とはいえないと私は思っています。学習とは、多様な課題の中から自分で勉強してみたいと思う課題を、自分の意志で、なぜそれを選んだか？を誰にでも説明できるようになることではないのでしょうか？そのためには、教師及び指導者自らが、学習として行う田んぼ体験説明会の中で、田んぼとは、自然環境に密着した、実に多様な顔を持っていることをほのめかす内容で興味・関心を持たせ、オリエンテーションを行っていくことが必要と思うのです。生徒の中には、田んぼに、興味がない子もいるでしょうし、虫が見たくて田んぼに行きたい子供たちもいるでしょう。

教師・指導者が事前知識として学んでおいてほしい内容

●稲作技術（田んぼの作業・田んぼの 1 年）●田んぼの生きもの ●地域の農的環境（棚田の説明） ●地域に伝わる稲作文化（わら細工等々） ●お米のいろいろな種類など
フィールドでの米つくり田んぼ体験作業の内容

●田起こし・堆肥作り●種まき・育苗（苗は、農協で手配の為、農協に出前講師をお願いする）

●代掻き・田植え ●水位管理●草取り●稲刈り●乾燥 ●脱穀●もみすり●精米
（学習テーマとしての参考）

生き物をテーマとして調べてみる（田んぼ・あぜの生きもの）

●田んぼの水生生物 ●イネの害虫、益虫、ただの虫 ●メダカ・モツゴ・モロコ等の魚類

●畦・草地の中の生きものとの比較●学校プールの生きものとの比較●周辺林の生きものなど

グループテーマについて（環境との関係を調べさせる）

●地域の農作業の歴史環境について●農機具・機械類の進化●肥料・農薬について●わらの利用について●お米の種類について●お米の料理方法●田んぼの植物・雑草●田んぼの生きもの●田んぼの環境と役割●水の役割など

（グループ評価について）

発表における評価対象をどう考えるか？

何を、誰に知ってもらいたくて行ったか？興味を持った理由は？

ねらい、調べた方法、調べた結果、自分たちの考えなど まとめがうまく発表できるか？などが評価の対象になりうると考えます。学習成果の目標として設定いただければと思います。

（本資料を作成するにあたり一部インターネットより文面を引用しました。）

学校林を利用した森林環境教育などについて

名古屋支部 滝田久憲

はじめに

私たちを取り巻く環境問題はすでに取り返しのできない段階にきているという研究者もいます。こうした中、人が自然と共生しながら持続可能な社会を作るために、何らかの行動の出来る人を育てることを目的とした環境教育の果たす役割は大きいと言えます。環境教育（学習）には、従来の教育のように知識や技術だけを教えるのではなく、参加者やグループの中から何かを引き出すことのできるファシリテーション能力を持った指導者（person）と、体験学習の理論に基づいて構成されたプログラム（program）、このようなプログラムを最大限に生かせる場（place）の三つのPが必要になります。今回、協議会の研修会で環境教育への取り組みの発表の場を得ましたので、私が関わっている環境教育に関わる2、3の活動について紹介させていただきます。

1. 学校林を利用した森林環境教育

森林環境教育とは、森林内での様々な活動体験を通じて、森林と人々の生活や環境との関係などについて理解と関心を深め、「循環型社会」の実現に向けて、森林やそれに関わる場で様々な活動のできる人を育成することを目指しています。また、学校林とは昭和20年代に児童・生徒やその保護者などによる奉仕活動によって森林を造成し、将来その収益を学校の施設改善の財源に当てていく目的で作られたものですが、最近では、森林の地主（官民を問わず）との間で学校林としての契約を交わすことでその森を環境教育や自然体験活動を行うための野外拠点として利用するようになりました。特に、この学校林については学校施設の一部であることから、これまで危険が多いとか怪我をしてはいけないとかで兎角敬遠されがちであった校外活動がしやすくなり、より地域の教育力を活用しやすくなります。

1988年に発足した東山自然観察会では毎月第3日曜日に行われる自然観察会の他に希少な生物やそれを育んだ湿地などの自然を守るために公園愛護会を結成して、様々な活動を行ってきました。また、東山公園の周辺の5つの小学校へは会報「東山通信」を配布し、自然観察会への参加や東山の森の学校林としての利用を呼びかけてきました。こうした中、東山公園の南部地域に隣接する名古屋市立大坪小学校では名古屋市と交渉を重ねた結果、平成16年度末に東山公園南部地域の一部を学校林に指定することができました。

東山自然観察会では、平成16年4月にこの小学校に赴任された尾張支部の鬼頭弘さんのお力添えもあり、この年からすでに5年生を対象にした東山の森での環境学習のお手伝いをしておりました。その主な内容は

目的 森の自然のしくみ、人との関わりを知り、循環型の森づくりを考える

対象 5年生、身の周りの自然を使った総合学習、9時から12時まで

スタッフ 東山自然観察会の指導員（滝田、中西、森）

方法 体験学習に基づいた森の中で(in～)森について(about～)森のために(for～)

という流れを持ったプログラムを実施する。

これまでの活動

平成16年度5月27日 森の自然観察

10月13日 自然マップ作り

10月29日 天白溪湿地周辺の森での間伐体験とクラフト材料集め

11月20日 大坪小学校設立30周年事業 大坪キッズワールドで発表

1月18日 シードバンク作り

平成17年度6月27日 森の自然観察（樹木の図鑑作り）

7月13日 植生調査

10月頃 自然の恵み（草木染め）

2. 名古屋支部の“なごやエコキッズ環境サポーター”協力事業

“なごやエコキッズ”とは名古屋市環境局が市内の公立、私立の幼稚園、保育園を対象に、子供たちが環境に対する感性を育み、その周りの人々も含めて環境にやさしい生活をするようになることを目的として平成16年度から始めた事業です。こうした取り組みを支援するのが環境サポーターで名古屋支部ではこうした取り組みに賛同した14名の会員が現在登録し、活躍しております。園で行うプログラムとしては、園庭での自然観察、季節の草花遊び、団子虫レース、ネーチャージーム、クラフト作り、生物の多様性やつながりの話、草花クッキング、緑と土と水の話、ゴミと生き物、水辺の自然観察、環境紙芝居、身近な野鳥などがあります。

最後に、最近、木曾三川公園で実施された自然教育のプログラムを実施指導するエデュケーターを養成する講習会に参加してきました。学校の先生方も多く参加されていましたが、環境教育には良質なプログラムとそれを使いこなせる指導者の必要性を改めて感じました。

岩倉自然生態園での子供とのかかわり

尾張支部 三輪千秋

すべり台もブランコも無く、草や木が繁り、鎮守の森にくっついた、池のある自然の公園。ここで、土日に3人の仲間と交代で来園者への説明や管理をしています。

夏休みの宿題で生き物のことを調べに来る子供達、おべんとうを持って一日、ザリガニ釣りを楽しむ家族連れがにぎわっています。親子のコミュニケーションを考え、親子連れにはあまり口出しせず見守っています。

子供達と草むらを歩き、ムシをつかまえ、木登りを手伝い、草花遊び、生き物クイズと一緒に楽しんでいます。当初、ザリガニ釣りの竿は無料貸し出しをしていたのですが、小学校低学年でも簡単に作ることができるので、各人で作ってもらうことにしました。というのも、子供達にできあがりの物を与えるのではなく、手先を動かし、糸を結ぶという工夫をしてほしかったのです。

ふだんの生活の中で靴のひもさえワンタッチになり、ひもを結ぶという行為もなくなりつつありますが、ここではタコ糸を結んでもらいます。小学一年生には細い糸は少し無理かもしれませんが、二年生なら少し持てやるとできます。結ぶことができるとうんとほめてあげます。子供は嬉しそうですが、少しはずかしい顔になります。しかし、親がそばにいとこれがうまくいかない時もあります。親がいつもの生活の調子で子供の代わりをやってしまう（子供にさせない）からです。子供がひと苦労して作るこのユックリズムが待てないのです。「早く早く」とか、「何でできんのよ」と口出ししてしまうのです。子供は人前で親にせかされるものだからあせるって、はかどりません。このような時には、「アッ、これは私がお手伝いしますから、親御さんは見守っていてください」と親の手伝い、口出しを止めています。そうしておいて、子供に優しい言葉をかけ待ってあげます。すると、ちゃんとできます。できた時はうんとほめてあげます。内心いらいらしながら見守っていた親も、「ヨカッタネ、ハヨオレイハ、アリガトウハ」と子供を促し、池の方へと歩いて行きます。私の胸の内はお礼なんぞいいから、子供に対する気持ちをもう少し楽

にゆったり構えてよと思っています。

ザリガニ釣りは餌がよいとよく釣れます。ザリガニも嗅覚は極めていいのかもしれませんが、少し貧弱な餌だと根気がいらいます。竿を持ち少しも釣れない子にも忍耐強く待つことの大切さをほめてあげます。子供は耐えて待って釣れた喜びを見せに来ます。これぞ子供のいい笑顔です。

また、生き物を怖いと思っている子には、どう怖いのか、どうすれば怖くなくなるのかよく説明し、少し手伝ってあげるとザリガニを初めてつかむことができるようになります。その勇気を大きな声でほめてあげると、親や他人に認知してもらえた喜びを味わい、これからも生き物にふれるようになれます。

子供達とのザリガニ釣りの一例をあげてみました。

「来る人にとって居心地のいい場所であって欲しい」をモットーに、また足を運んでみたいと思い出してもらえるような岩倉自然生態園作りに精を出しています。

その他、岩倉ナチュラリストクラブの自然観察会、委託を受けた生物や水質の調査、ごみ拾い、池の中のマコモやガマの刈取り等も体力をつけるには格好のものかもしれませんが、そして大きな役割のひとつにあげたいものは、地域とのコミュニケーション。自然生態園の繁栄にはやはり地元の方々と仲良くやっていくことが私の大きな役割かもしれません。

岩倉自然生態園は岩倉の駅から少し離れた所、一宮のインターに近い所です。来てみませんか。



生態園でのザリガニ釣り風景

食 べ る 誘 惑 、 創 る 魅 力 (I)

知多支部 村瀬由理

秋の観察会と言えば、知多支部の行事予定表を見ていただくと分かるように、「きのこ」「自然の恵み」「森の宝物」「紅葉」「山の幸」「木の実」と豊かな自然の実りを五感で感じるのだと思います。

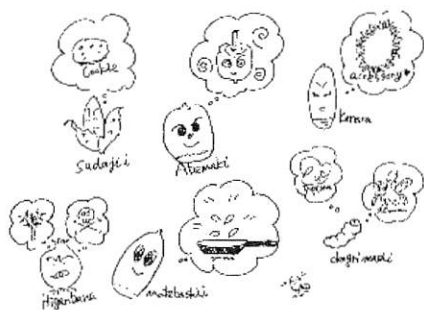
味わってみよう、いろいろなドングリ

私が、まだほんの子どもの頃、近くの神社の境内の掃除を「子ども会」という地区の小学生の集まりで行うことになっていました。アベマキとコナラの木がたくさん生えていたので、大きなドングリと小さなドングリを拾いながら落ち葉を掃き集め、ご褒美に焼き芋を焼いてもらって食べた記憶があります。この頃から好奇心旺盛な私は、ドングリを焼き芋の隣で焼いて、食べてみました。な、なんと、苦かったこと!! 古代の人はこんなドングリを食べていたのか?? その後、父と母から「椎の実なら食べられる」と聞き、近所を探してみたものの、図鑑を見ることも知らなかったので見つけることが出来ませんでした。だから、今でも「椎の実」を拾うと、すぐに口に入れて、味わってみたいくなります。

知多半島・大府市近辺で街路樹や公園に植栽されている樹木には「スダジイ」と「マテバシイ」が多く見られます。観察会で歩くときには、必ずチェックを入れておき、生で味わったり、煎ったり茹でたりして「お恵み」を楽しみます。特に煎ったスダジイは好評で「ピーナツみたい」「懐かしい味」と大人も子どもも表情が和らぎます。

ドングリ虫の受難

ドングリの実りの量には毎年違いがあると思います。地域性や木の勢いにも関係があると思うのですが、私の観察している「森岡八幡神社」(大府市森岡町)では昨年よりも一昨年の方が多く実ったと思います。そのドングリを「創る」材料にしようと子どもたちと拾いまくりました。拾ったものを菓子箱に並べて陰干しにしておきました。それから、出てくるは出てくるは「ドングリ虫」の大群。これは、コナラシギゾウムシ仲間の幼虫で、ドングリがまだ青い頃に成虫が卵を産み付け、幼虫は中身を食べて成長し、土嚢を作るためにドングリから出てくるのだそうです。ドングリには小さな穴が開いてしまっています。この穴の位置関係の変化を比べるのもおもしろいと思うのですが、まだ真剣に見たことはありません。この「ドングリ虫」を生で口に入れるのは、少々抵抗があります。でも煎ってしまえば…。目が点になるほどのおいしさなのです。始めはこわごわ口に入れる子も、「ポップコーンの味」と大好評です。



禁断の味……

よい子はけしてまねをしないで下さい。

「暑さ寒さも彼岸まで」といはいく言ったものですが、秋のお彼岸になると日本各地から「ヒガンバナ」の開花の便りが聞かれます。子どもの頃は「さわるとかぶれる」「毒の花」と怖い話を聞かされたものです。この花の1年間の様子を観察すると、特有の生活パターンがあり、興味深いものがあります。その「毒の花」の球根には猛毒アルカロイド系「リコリン」が含まれていますが、飢饉の際の究極の非常食だったという話も聞いたことがあります。今から何年も前、当時愛知教育大学 生物科生態学教室教授 金森正臣先生(現 愛知県自然観察指導員連絡協議会 顧問)のご指導の元に究極の「葛湯」ならぬ「彼岸花湯」を作ったことがあります。花が咲き出す前の球根を採集してきて、すり下ろしました。すでにこのときから指先が、びりびりしていましたが、ボールに入れて、3日間くらい流水でさらしました。ボールの底に残ったデンプンを煮詰めて「彼岸花湯」の完成。これこそ「怖いもの見たさ」、いえ「怖いもの食べたさ」です。ほのかに甘い味の中に唇を刺激する「アルカロイド」のあやしい気配。金森先生曰く「もっと晒した方がよかったねえ」。その時の仲間は全員に今までも生きています。ヒガンバナを見ると、怖い物食べたさに心を引かれる私です。

図鑑では解らなかったこと

東三河支部 牧野 紀子

今年の豊橋も、暑い夏でした。フィールドに出るのをためらいたいくなることもあります。この時期は、私のお気に入りのナツフジが咲き出すので、それが楽しみです。レモンイエローの爽やかな花を見ると暑さが和らいでくるかのような気持ちになります。

去年の8月頭に、ナツフジの花が咲く部分を一部のみ採取し、自宅で花の絵を描いて見ることにしました。

おおむね下書きが終わりつつある頃、房の下の方にナツフジのこれから咲こうか、とする大きなつぼみに目がどまりました。「あれ、こんなところに咲きそうなつぼみがついていたっけ？」と注目するも何かがヘンです……。

よく見てびっくり！！ナツフジの花色をした何かの幼虫だったではありませんか！！そういえばつぼみが何者かに食べられていることに気がつきました。犯人はこの虫ですね。

その後その謎の幼虫と共にナツフジを花瓶に挿したまま、数日が過ぎると付近の金魚の餌袋に蛹変わった虫がいました。そしてお盆明けに出かけようと自宅の扉を開けたある日、玄関よりピカピカの真新しい姿の蝶が1匹、ぽろんと外へ飛び出してきました。

幼虫の正体は、ウラギンシジミの雄でした。

図鑑ではこの蝶はマメ科植物が食草であるとししか描かれていません。幼虫の姿も、蛹の形もどんなものなのかは、私の所有する蝶の図鑑では分かりません。増して食べている食草の花の色になるとは……。

今回は図鑑のみでは決して知り得なかった、ウラギンシジミの意外な一面を見たのでした。

指導員のお手伝いとして、参加された一般の方に説明するとき、大抵は図鑑で得た知識をそのまま述べることが多い私ですが、今回のように体験してみなければ解らない知識をもっと多く持ち、それを元にして皆に生きものの様々な姿を伝えていくことができたならば、と思います。まだ私たちの知らない、懸命に生きる姿が自然界にはあるに違いありません。

ウラギンシジミ幼虫の姿写真をここでお伝えできないのが残念です。インターネット検索で探してみると、クズの花の濃い紫色になった姿が紹介されていましたよ。こうしたことがきっかけで、私は更にこの蝶に親しみが持てるようになりました。



(写真＝ナツフジの花)

植田町では比較的良好観察できる)

豊かな自然セクション100

県内の豊かな自然を知り、環境に対する理解を深めてもらうため、愛知県が県内のエコスポット 100 箇所を定めています。先月に引き続き紹介します。

阿寺の七滝

奥三河支部 村上和彦

所在地 鳳来町下吉田阿寺地区

概要

天竜奥三河国定公園にあり、静岡県との境にある巣山高原から流れる水は、阿寺地区で阿寺川となり、礫岩の断層崖を落下して、全長 64M にわたる 7 段の階段状を成し、すばらしい曲線美を描いて深い滝壺に落ちる姿は幽玄そのものです。うえから 2 番目と 5 番目の滝壺は大きな甌穴を持ち、礫岩にかかる滝としては学術上貴重なものとされています。また、この礫岩を子抱石ともいい、これを祀ると子供が授かるという伝説があります。

特徴

昭和 9 年 1 月 22 日国指定 名勝天然記念物

東海自然歩道が鳳来寺山へ登り始める少し前にあつて、町営バスの七滝口バス停より小川に沿って歩いて行く、岩煙草(イワタバコ)が岩陰に根茎から 2~3 葉を出している姿は可憐だ。道が終わると、そこが七滝だ。

みどころ

東海自然歩道は鳳来町をえぐるように静岡

県の鳶の巣山(670m)から入って、百間滝、阿寺の七滝、秋葉街道と細川、宇蓮川を越えて鳳来寺山を登り、棚山高原を宇蓮山(929m)の西側を巻いて、スタンプラリーでお世話になった四谷千枚田の北側を鞍掛山へ向かうコースです。自然歩道からチョット横道へ入れば、湯谷温泉、赤引温泉があり、鳳来寺山の麓には自然科学博物館があります。

コースの中心は鳳来寺山で、文武天皇の大宝 3 年(703)、利修仙人によって開かれた真言宗の古刹。鎌倉時代に源頼朝によって再興され、三重塔が建立されたと伝えられています。利修仙人作の本尊薬師如来を祀り、薬師信仰と山岳修験道の霊山として古くから信仰を集めてきました。徳川家康誕生の縁起によって東照宮が建てられています。また、自然が豊富で全山博物館といっても過言ではありません、モリアオガエル、ブッポウソウ、ウラジロギボウシ、ピッチストーン等自然観察の良い場所です。今は階段を登らなくても湯谷温泉より有料道路が東照宮の横まで走っていますので、駐車場か

ら横へトラバースすれば、本殿にゆけます。昔は、家光の時代には 21 院坊があり、1350 石の寺領でした。



愛知県自然観察指導員連絡協議会

創立 25 周年記念事業について

今春から理事会では、25 周年記念事業について幾度も討議してきましたが、フレームがほぼ決まりましたのでお知らせします。(財)日本自然保護協会顧問の柴田敏隆氏をゲストにお招きします。是非みなさまお誘いあわせのうえ、ご参加ください。次号は、さらに詳細をお伝えする予定です。どうぞ、お楽しみに。

日時：11 月 23 日（水・祝）午後 1 時～午後 4 時 30 分（含休憩）

会場：なごやボランティア・NPO センター 第 1 研修室
名古屋市中区栄一丁目 23-13 伏見ライフプラザ 12F
地下鉄東山線「伏見」下車 ⑥ 出口より徒歩 6 分

内容：テーマ『アウトドアの安全講座』

(1) 基調講演：演題「自然のなかの危険とどうつきあうか」

講師：(財)日本自然保護協会 顧問 柴田敏隆氏

プロフィール：1929 年神奈川県横須賀市生。

日本のコンサーベーションистの草分けとして、自然保護、環境保全、野生動物の保護、子どもの自然体験の指導、自然保護観察指導員の養成、自然保護・環境教育の指導などに携わってきた。環境庁長官表彰はじめ多くの賞を受賞。『カラスの早起き、スズメの寝坊』（新潮社）、『わんぱく原っぱ自然とあ・そ・ぼ』（小学館）など著書多数。

(2) シンポジウム 「あなたならどうする？ 野外での危険と安全」

○ パネラーの発表・問題提起

○ パネルディスカッション

会場の参加者からの質問、意見発表も募り、議論を深める。

(3) 会場のロビーで支部ごとのブースを設け、パネルなどの展示

基本コンセプト

野外の活動には様々な危険が潜んでいる。そこで、パネラーが様々な「危険」の事例を紹介し、問題提起をするとともに、会場の参加者も交えて意見交換を図る。アウトドアに危険は当たり前だが、それを予測・予察することで危険回避は可能。危険の正体を知り、うまく避けて付き合うことで、同行している第三者の方々が安心して、自然の中で過ごせるようリードする役割を自然観察指導員は担わねばならない。単にネイチャーガイドだけでなく、事故に至る要素を学び、ミスの連鎖を止める力を身につけて、『アウトドアでの安全指導員』になろう。

☆ 単なる周年行事におわらず、

今後の協議会、各支部の自然観察活動へ活かせる。

☆ 県協議会内行事にとどまらず、

「自然観察指導員の諸活動」を周知させるよい機会である。

※ 尚、11 月 23 日午前は、10 月に指導員講習会受講の新指導員を迎えて「新指導員歓迎の研修 & 交流会」を予定しています。当日は愛知県自然観察指導員連絡協議会オールデーでお楽しみください。

理事会記録

2005/8/28(日) PM2:30~5:00

於 なごやボランティア・NPOセンター
出席者：中西正 松尾初 石田晴子 近藤記巳子
佐藤国彦 堀田守 吉川洋行 梶野保光

村上代理：今泉 降幡光宏 三田孝
議長 中西正 記録 近藤記巳子

◆議題

1. 25周年記念事業について

- ・星野実行委員長より、全体の流れの確認。
- ・基調講演に NACS-J 柴田敏隆氏
- ・演題：「屋外での危険とどう向き合い、
つき合うか」
- ・会場：なごやボランティア・NPOセンター
第1研修室確保
- ・今後の準備作業の役割分担を下記の通り決定

①基調講演者

柴田敏隆氏に講演依頼 → 事務局：近藤
展示 → 保全担当：吉川
懇親会 → 企画：堀田

②チラシ作成（原稿作成・切り9/23）及び チラシ印刷 → 広報担当：巾

③広報：新聞社・放送局・フリーペーパー他 → 広報担当：巾

NACS-J 及び「協議会ニュース」の切り
10/上旬 → 実行委員長：星野

④後援依頼：名古屋：巾 愛知：石田

NACS-J：星野

⑤当日の細案・・・

タイムテーブル作成にて周知を図る。

- ・会場設営：実行委員長：星野及び事務局：近藤
- ・利用可能付属機材：液晶プロジェクター・スライド
プロジェクター・OHC（尚、PCは持込を要す）
- ・その他に司会・受付・スタンプラリー（記念品
準備）などの担当を要す。

⑥スタンプラリー景品の受け渡し：チラシに各支部 HPに掲載とうたっているためWEBに載せる原 稿の作成 → 観察会担当：山田

⑥午前中（10:30~12:00）は、新指導員の歓迎会の 内容について検討依頼 → 研修担当：大谷

2. 会員から保険についての問い合わせが会長あて
にあり、対応を検討
3. 9/23 学校における環境教育、10/30 陸貝研修に
ついての連絡
4. 指導員研修 10/8・9・10 についての連絡

■自然観察指導員講習会に協力

10月8・9・10日の3日間にわたって、自然観察指導員の養成を目的とした自然観察指導員講習会が岡崎市の桑谷山荘及びその周辺のフィールドを会場に開催されます。（財）日本自然保護協会と愛知県が共催し、愛知県自然観察指導員連絡協議会が協力します。中西会長はじめ複数の会員が講師として指導に当たります。

自然観察指導員として登録された仲間が、新たに協議会に多数入会されることでしょう。

11月23日の25周年記念事業当日には、新指導員歓迎会を予定しています。さまざまな新会員との出会い・交流を通して親交を深めましょう。

新指導員には、協議会・各支部での活躍を期待したいものです。

■住所変更・追加記入のお願い

=会員名簿=

◆住所変更（郵便番号・電話変更なし）

小木曾さん（名古屋支部）
名古屋市天白区野並4丁目228

◆新入会員

松井登さん（名古屋支部）
〒466-0838 名古屋市昭和区五軒家町84
(052) 933-7079

渡辺敦さん（名古屋支部）
〒468-0055 名古屋市天白区池場4-215
たかぎ荘201
090-8183-2129

山田由乃さん
〒441-1632 鳳来町富栄字甚居貝津13
(0536)22-2702

■連絡先などの変更は早めに

転居・婚姻などによる住所・氏名などの変更は速やかにご連絡ください。また最近では住所表示変更も多くなっています。表示変更のみならず、郵便番号の変更も忘れないよう手続きください。ことに注意が必要なことは、宅配会社のメール便は、郵便物のように転送システムがありませんので、その旨了解いただくようお願いいたします。発送担当のメンバーを、どうぞ戸惑わせないようお願いいたします。（事務局：近藤）

行事案内

研究会

開催日時	場 所	テーマ	備 考
9月23日(金・祝) 14:00～16:30	竜美丘会館(Tel:0564-24-3951) 岡崎市東明大寺町5-1	第2回学校における 環境教育の指導方法	担当:佐藤国彦さん (Tel:0561-73-5674)

10月のスタンプラリー

開催日時	場 所	テーマ	備 考
10月1日(土) 9:30～12:00	名古屋市名東区の猪高緑地 集合:名東生涯学習センター前	里やまの自然	担当:堀田守さん (Tel:052-774-1196)

今回がスタンプラリーの最終回です。ふるってご参加下さい。

野外研修会

開催日時	場 所	テーマ等	備 考
10月30日(日) 10:00～12:00	名古屋市熱田区・熱田神宮 集合:名鉄神宮前駅改札口	陸員の同定 講師:中根吉夫先生	○担当:大谷敏和さん (Tel:0572-23-6907) ○サンプルを持って参加して いただいても結構です。

25周年記念事業

日時:11月23日(水・祝) 13:00～16:30

場所:なごやボランティア・NPOセンター第1研修室

内容など詳細は本紙p10をご覧ください。

※尚、当日の午前は「新指導員歓迎の研修&交流会」を予定しています。

編集後記

■102号の編集を終えて一息。2号
続いて発行が少し遅れてしまいました。
これ、8月28日の理事会の結果
をお届けするため。ご容赦を。

■「豊かな自然100選」は、2カ所
紹介する予定で原稿をいただいたもの
の、紙面の都合で1カ所を次号まわ
しにせざるを得ず、重ねておわびを。

■暑い、暑いと言って編集に追われて
いるうちに虫の鳴き声もクマゼミか
らコオロギへ。

■季節は毎年同じように巡るものと思
いこみがちなけれど、外来種の侵入や
気候変動の影響などで動植物も栄枯
盛衰。

■自然観察指導員として、こうした気
候や動植物の変化をきちんと記録し
ていきたいものです。

(齋竹)

表紙絵:「スズメバチに気をつけよう」岩沙雅代

編集スタッフ

稲生 和久、岩沙 雅代、近藤 記巳子、齋竹善行、
古川 俊江、苅川 真弓、松尾 初、横井 邦子

◎みなさまのご意見・ご感想など原稿をお寄せ
ください。

尚、原稿は内容を変えない程度に加筆・修正す
ることがあります。あらかじめご了承下さい。

協議会ニュース編集部

〒445-0863

西尾市葵町4-4 苅川 真弓

愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋市南区鳥栖2-6-17 桜本町 CH101

近藤 記巳子 Tel/Fax 052-822-7460